

一般質問 令和5年第1回定例会 3月議会 質問者 議員 佐藤勝人
実施日 3月8日(水) 13.30~14.20(50分)

- [1] 土砂災害行方不明者捜索活動について
- [2] ①避難所の非構造部材への対応 ②避難所周辺の樹木への対応
- [3] 大島町社会福祉協議会の新たなる挑戦
「大島食堂」(子ども食堂)を開設 「大島食堂」のめざすもの

[1] 土砂災害行方不明者捜索活動について

来年度は土砂災害10年目の節目の年に当たります。平成26年9月に策定された「大島復興計画」においては、後期計画(令和2~5年度)の最終年度に当たります。

後期の目標を「復興でめざす島の姿として〈安心と笑顔があふれる美しい島〉を実現します」と定めています。

復興計画は、町全体の復興と元町地区の復興の2本の柱を中心に推進されてきました。元町地区の復旧・復興については、次の事業が挙げられます。

メモリアル公園の建設、導流堤・堆積工の設置、砂防ダムの整備、御神火スカイラインの整備、大金沢の整備・町道の新設、弘法浜・湯の浜からの流木・土砂の撤去、図書館を中心とした複合施設の建設、元町保育園の建設、弘法浜サンセットプールの建設、復興町営住宅の建設等。

一方忘れてはならないのは、「心の復興」ということです。

建物やインフラなどハード面での復興が推進されてきましたが、ソフト面における支援の継続が求められています。町としてもインフラ整備とともに、「被害者生活再建支援」も継続して行われているところです。

被災者一人一人に寄りそった町の対応が、土砂災害の記憶を風化させないためにもこれから大切になってきます。

この意味においても、「行方不明者の家族や親族へのはたらきかけ」は、被災者支援につながる重要な取り組みのひとつではないでしょうか。

3名の行方不明者、女性1名(当時75歳)・男性2名(当時71歳・47歳)の方々の捜索が行われると思いますが、次の3点について見解を伺いたいと思います。

① 来年度、土砂災害10年目の節目の年を迎えるにあたって、海浜・海中捜索についての捜索方針はどのような内容になるのでしょうか。

捜索方針については、「行方不明者捜索協議会」で検討されると思いますが、捜索場所や回数、捜索方法等については、節目の10年目ということで、今年度まで実施してきた内容を踏まえて、より効果的な方法を推進していく考えでしょうか。

② 来年度の捜索に対して、行方不明者の家族・親族等に対して、捜索についての要望等をうかがっていただきたいのですが。

③ 1年間の捜索の結果を行方不明者の家族・親族等へお知らせしているのでしょうか。

[2] ①避難所の非構造部材への対応 ②避難所周辺の樹木への対応

①に関して

非構造部材のひとつである、「ガラス窓」への対応を
飛散防止フィルム施工・強化ガラスへの更新などの処置を

②に関して

避難場所周辺の樹木の倒木による避難所等の被害を防ぐための対応を。
樹木の伐採・撤去などの対策を。

クダッチ在住の町民の方々から、クダッチ老人福祉館は、避難所にはふさわしくないのではないかと意見が寄せられました。

その理由は「福祉館の講堂は外壁がほとんどガラス窓で、台風が発生した場合、強風のためガラスが破壊されて危険ではないか。講堂はせまいし、もっと広くてがんじょうな建物に避難させるべきではないか。例えば三中の体育館などに」というものでした。

老人福祉館は施設面積が 401 m²で、収容人数が 231 人となっています。和室が 12.5 畳の広さの部屋が二部屋続きになっています。

講堂のガラス窓には、カーテンが布設されています。そのカーテンですべてのガラス窓は覆うことができます。その意味では、カーテンで、ガラスの割れや飛散をある程度防げることができるかもしれません。

もう一つ不安材料があります。それは、避難所の周りの大きな樹木の存在です。数本の大木があるのですが、そのほとんどが、歩道に面した土手に植栽されています。強風にあおられて倒れた場合、土手が崩れないかどうか心配です。その他に福祉館の建物を直撃する可能性のある木が 1 本あります。

建物の裏手にまわってみると、土手状になっている所に大小さまざまな樹木がびっしりと茂っています。比較的大きな木が数本あります。その木が倒れた場合、建物を覆いかぶす可能性があります。

令和元年 9 月の台風 15 号では、海洋国際高校の窓ガラスが 180 枚ほど割れ、体育館の屋根が吹き飛ばされるなど、大変な被害を受け、学校が休校になるほどでした。

クダッチ老人福祉館は「旧大島南高校寄宿舎」の入り口から都道をはさんだ少し高台になっているところに建てられています。

海洋国際高校の体育館から寄宿舎入り口まで、都道の歩道沿いに、高い所では 5 メートル近いコンクリートの擁壁が布設されています。擁壁の土手状に当たる部分には、種々雑多な樹木が生い茂っています。

一方、老人福祉館側の都道の歩道沿いにも同じように、電気店の住宅から老人福祉館の入り口近くまで、コンクリートの擁壁が布設され、反対側と同じように土手上には、種々雑多な樹木が生い茂っています。

クダッチ老人福祉館の前庭には、子供の遊び場、「児童遊園地」になっていて、ブランコ・すべり台・スプリング遊具があります。たまに子ども達が遊んでいる光景を目にします。ブ

ランコの近くに1本、滑り台の近くに1本、そして遊園地を囲っている金網のすぐそばに、大木が1本植栽されています。この大木の大きな枝が遊具の真上にせまってきています。クダッチ老人福祉館のもう一つの心配ごとです。クダッチ老人福祉館は台風等が発生し、土砂災害警戒情報により避難指示が発令された場合、優先的に開設される指定避難所の一つになっています。

クダッチ老人福祉館の他に、波浮港老人福祉館・差木地公民館・差木地地域センター体育館・三中体育館を視察しました。

それぞれ指定避難所になっています。クダッチ老人福祉館と同様に、非構造部材のひとつである「ガラス窓」と、建物周辺の樹木の様子を中心にそれぞれ紹介します。ガラス窓以外の非構造部材である、天井・照明器具・外壁・バスケットゴール・エアコン・暖房具についても紹介します。

「波浮港老人福祉館」

- 講堂の外壁はガラス窓。すべてカーテンを布設。エアコン設置。照明器具は異状なし。
- 和室は10畳の広さの部屋が二部屋続き、和室の外壁はガラス窓。カーテンではなく、障子戸を布設。
- 福祉館の周りには樹木がない。民家がすぐ近くに。屋根はかわら屋根。強風によりかわらが飛んで来る可能性がある。
- 避難指示発令の場合、優先的に開設される指定避難所。
- 施設面積が423㎡。収容人数は244人。クダッチ老人福祉館とほぼ同じ規模の避難所。

「差木地公民館」

- 講堂の外壁はガラス窓。すべてカーテンを布設。エアコン設置。照明器具は異状なし。
- 和室・会議室を布設。
- 講堂内の一部床面が腐食してはがれている。ガラス造りのドーム型の壁面に布設してあるカーテンが途中までしか閉まらない。
- 布設面積は610㎡。収容人数は351人。
- 避難指示発令の場合、優先的に開設される指定避難所。

「差木地地域センター体育館」

- 照明器具は天井に埋め込み式で設置。
- バスケットゴール3基壁面に設置。
- バルコニーに沿ったガラス窓には全面にカーテンを布設。
- エアコンは未設置。暖房器具3台体育館の隅に。
- 天井には落下防止の網は張られておらず。
- 体育館入り口の右側外壁に、かなり太めの松の木が3本、壁面近くに。3本とも体育館の屋根の高さをはるかに超えている。強風に今まで耐えてきたのでしょうか。体育館裏手には、体育館のバルコニーのガラス窓に今にも枝が触れるような高さの木が。この木も心配。

- 施設面積が 792 m²。収容人数は 459 人。
この施設の課題も、樹木の倒木をどう防ぐかです。
「三中体育館」
- 天井は全面張り替えられており、天井全体に天井の崩落を防ぐ網状のネットが張り巡らされていた。
- バasketボールゴール 2 基壁面に設置。
- バルコニーに沿ったガラス窓は全面にカーテンを布設。
- エアコンは未設置。暖房器具(ジェットヒーター)3 台が新たに納入される。
- 体育館の周辺には大きな樹木はない。
- 施設面積は 900 m²。収容人数は 518 人。
- 避難指示が出た場合の、優先的な指定避難所ではない。

令和 4 年 3 月の改訂版である「大島町公共施設等総合管理計画」によりますと、大島の指定避難所は 29 施設、二次避難所(福祉避難所)として 4 施設、合計 33 施設あります。33 施設のうち、町保有の施設が 27 施設あります。27 施設のなかの、「クダッチ老人福祉館」はじめ 5 つの指定避難所について、非構造部材の一つである、ガラス窓と建物周辺の樹木の様子を中心に紹介しました。

これらのことを踏まえて、次のことを質問いたします。

- ① 大島町保有の避難所の非構造部材の一つである「ガラス窓」についての総点検を今後計画していただきたい。点検の結果、危険箇所や補修の必要があると判断した場合、窓ガラスの飛散防止フィルムの施工、強化ガラスの設置などの処置を順次おこなっていただきたいと思いますが、どうでしょうか。
- ② 避難所周辺の樹木の状況を総点検していただきたい。点検の結果、危険な状況にあると判断したときは、順次、伐採や撤去をおこなっていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

[3] 「大島社会福祉協議会」の新たな挑戦

「大島食堂」〈子ども食堂〉を開設。「大島食堂」がめざすもの

令和 4 年 6 月 25 日、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ(湯浅誠理事長)の支援を受けて、大島における「子ども食堂」を「大島食堂」として立ち上げるために、「大島食堂プロジェクト住民ミーティング」が開催されました。

大島社会福祉協議会(以下「社協」と呼ぶことにします)の主導によるものです。

これに先立つこと、令和 4 年 2 月に、「むすびえ」より「社協」に対して、「子ども食堂開設のはたらきかけがあり、「社協」は取り組む意向を「むすびえ」に示しました。

「むすびえ」は、伊豆諸島・小笠原諸島の各島にはたらきかけましたが、手を挙げたのはその時点では「大島社協」だけでした。「大島社協」の意欲的な姿勢に拍手を贈りたいと思います。

6 月 25 日の「住民ミーティング」は、野増小体育館で行われました。参加者は 47 名。

第1部 「地域食堂」とは？ 全国の取り組みの紹介。

第2部 意見交換会 「大島食堂」立ち上げに向けて。ワークショップ

第1部・第2部とも活発な質疑応答・意見交換がなされ、「大島食堂」開催にむけての気運が盛り上がりました。

参加者の声を紹介します。

「子ども食堂の沢山の役割を知ることができ、子ども食堂のイメージが変わった。住民参加で、住民が作り上げ、住民の結束が固くなり、今後活動が広がり、認知度が上がり住民にプラスになることが分かった。」というものです。

このミーティングを受け、第1回「大島食堂」打ち合わせ会を7月13日に開催。「大島食堂」のコンセプト(中心となる考え方)を参加者で共有。

「子どもからお年寄りまで、だれでも参加できて、食を通して楽しみながらつながる場所」としました。いわゆる「多世代交流」をメインにするという認識を共有しました。

さらにお試し「プレ食堂」(本番前の試験的な食堂)を10月1日に開催することに。参加者は、ボランティアメンバーとその家族や知り合いの範囲で。オープンには告知せず。40名程度の規模になるようにする。メニューはカレーライスとおにぎり・豚汁。会場は役場または公民館での方向で開催することに。

10月1日開催当日。参加者は20名(内子ども4人)。場所は開発総合センター調理室と大会議室を使用。かかる時間や費用および人手、手順や必需品の確認を行いました。

10月22日。いよいよ第1回目の「大島食堂」を差木地公民館にて開催。

- 参加者 ボランティア 大人21名 子ども9名 一般(事前申込制)大人17名
子ども8名 合計 55名
- 参加費用 子ども 100円 大人 200円(ボランティアは除く)
- メニュー カレーライス 焼き野菜添え・白玉入りフルーツポンチ
- 遊び道具 ゲーム 折り紙釣り ポケネット(差木地老人会提供)
グランドゴルフ オセロ 将棋 トランプ ウノ けん玉 こま
- 参加者の感想
 - ・楽しい、明るい、そして、さわやか雰囲気の中で時間が流れていきました。
 - ・それぞれの役割分担をてきぱきとこなすことができました。このことは、「むすびえ」のスタッフの方も大変に感心されておりました。
 - ・久しぶりに小さな子供たちと接することができ、楽しい思い出をつくることができました。
 - ・高齢者の方々とも、食事の時間や遊びの時間を通して交流を深めることができました。
- 令和5年1月22日 第2回目開催。会場は岡田コミュニティセンター。
- 参加者 ボランティア 大人19名 子ども3名 計22名
一般(事前申込制) 大人36名 子ども29名 計65名 合計87名
- メニュー カレーライス 〈副菜〉里芋・白菜・大根の味噌汁・フルーツ缶

ペヤング焼きそばを提供 ライオンズクラブより 130 食寄贈。食事の際、大島高校農林科生徒により試食を提供。さらに商品の説明等もしてもらいました。来場者には一人 1 食プレゼント。

- 遊び道具・ゲーム オセロ 将棋 折り紙 ジャンボかるた けん玉 カードゲーム 風船突き 岡田老人会より輪投げの提供。 ドローン操縦体験
- 寄付 各種団体個人よりたくさんの方が寄付がありました。
米 ペットボトルお茶 野菜 お菓子 フルーツ缶 ペヤング焼きそば
- 参加者の感想

・大人も子どもも参加者がとても多かった。第 1 回目より大人が 17 名子ども 15 名増えました。

・食事席が対面にならず、黙食ができました。「黙食」へのお願いの用紙をテーブルにはって注意を喚起しました。さらに紙コップを使った、手作りの黙食を呼びかけたグッズを活用。

・ペヤング焼きそばの試食とプレゼントの試みは、新鮮な取り組みに感じられました。教育現場と地域との結びつきの好事例の一つだと思います。

・レクリエーションは、楽しく取り組めるメニューが多かったのが良かったです。

・寄付について今回たくさんの方から提供があり、「大島食堂」の認知度が高まっていることを感じました。

・ぬいぐるみの「あんこ猫」が外で、来訪者や近くに住んでいる住民と一生懸命ふれあっていました。大変ほほえましい光景でした。

・今回より新しいボランティアとして参加された方が、大人 5 人、子ども 1 人おられました。このことも大きな成果のひとつだと思います。

2 回目の取り組みについては、2 月 1 日付けの東京新聞で紹介されました。

題して、「大島食堂」住民のつながり再構築へ伊豆諸島に誰もが集える場、というものでした。記事中では、「島では地域活動の担い手の高齢化や地域のつながりの希薄化が課題になる中、新型コロナ禍に襲われた。運営する地元の社会福祉協議会や関係者は、多世代交流を通じて地域住民のつながりの再構築を図る。」と「大島食堂」が目指すものを的確に表現されていました。

3 回目は、令和 5 年 4 月 9 日に開催予定。そのための打ち合わせ会が、2 月 28 日に開かれました。

「大島食堂」の開催に当たっては、必ずボランティアに対して、意見や提案、アイデア、開催希望日等を、「社協」の担当者がきめ細かにメールでやりとりしています。「大島食堂」をスムーズに開催させるための極めて重要な情報共有の場になっています。

子ども食堂のはしりは、2012 年 8 月、東京都大田区で、「気まぐれ八百屋だんだん」を営む近藤博子さんが、「ここで温かいご飯を食べて」と子ども達のために始めた食堂が最初とされています。「だんだん」とは、近藤さんの出身地島根の方言で「ありがとう

う」という意味。給食以外はバナナ 1 本しか食べられずにいる小学生が地域にいると知ったことがきっかけでした。「皆の笑顔と成長が励みでした」と 10 年間の取り組みを振り返り、「子どもが元気なら未来も明るい」と今も栄養たっぷりの献立に愛情を注ぎ続けています。

「子ども食堂」は、2021 年 12 月現在で、6014 カ所に増えました。2018 年から 2021 年の 4 年間で、毎年 1,000 カ所以上増えています。

「少子高齢化などで地方が寂しくなる中、危機感を持った人が、その大切さを気付き始めているのだと思います。」と「むすびえ」の湯浅誠理事長が述べています。このような背景のなかで、「むすびえ」からはたらきかけに、前向きに応じた「社協」は住民ミーティングからスタートして、7ヶ月目で2回の「大島食堂」を開催するにいたっています。

社協の呼びかけに呼応して、ボランティアの数も増えています。私も住民ミーティングから現在まで取り組みに参加させていただき、子どもからお年寄りまでのさまざまな年代の方々と触れ合うことができ、とても新鮮な出会いを体験させていただきました。まさに大島食堂が目指す「多世代交流」を体感することができました。

現段階においては、社協主導の運営がなされていますが、社協の思いとしてゆくゆくはボランティアを中心とした運営組織が構築されることを目標としています。「気まぐれ八百屋だんだん」もボランティアが中心となって運営されています。

「社協」の事業には、地域福祉・児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉・在宅福祉・ボランティア活動・被災者支援などがあります。これらの諸事業を推進する上で重要な役割を担っている制度に「協力員制度」があります。

「協力員」の具体的な活動には、配食サービス・会食サービスの運営・福祉まつりや老人ホーム・知的障害者施設の行事・バザー等にボランティアとして参加し、行事を盛り上げる役割を果たしています。さらに社協広報紙の配布、会費の戸別徴収、赤い羽根共同募金・12月の歳末たすけあい募金の徴収、そして地域住民からの要望を関係機関につなげる役割も担っています。

令和4年度時点での「協力員」は、13地区合計で191人の態勢になっています。「社協」の理事・評議員と同様、無報酬で活動に励んでおられます。ただ活動を推進するに当たっての一つの課題として、「協力員」の高齢化があげられます。この課題を克服すべく、「社協」は令和4年度の事業計画の重点目標の一つとして、次の目標を掲げています。「地域福祉の担い手や参加者、地域の交流人口は年々減っている。新たな担い手の参加を目的として、幅広い年齢層に参加を促すような仕組みづくりを行う。」というものです。

この目標を達成させるための重要な取り組みとして、社協は、「大島食堂」の推進、活性化を目指しています。「大島食堂」の活動をとおして若い人材の発掘につながることを「社協」は期待しています。私も「大島食堂」の活動を体験する中で、「社協」の

事業活動にはどのようなものがあるのか、興味を抱くようになりました。「大島食堂」以外にも何かお手伝いできることがあれば、やってみたいという思いになりました。

「社協」では「大島食堂」の活動によって、成果として期待できることについて次のような視点を挙げています。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① 地域住民同士のつながり創出 | ② 高齢者の社会参加と役割付与 |
| ③ 子育て家庭への支援 | ④ 子どもの居場所・食育・学習支援 |
| ⑤ 中・高校生へボランティア機会提供 | ⑥ 地域への愛着醸成 |
| ⑦ 食材提供によるフードロス解消 | ⑧ 貧困対策 |

2回の「大島食堂」の活動で上記の視点がどこまで達成されているのかを話し合う機会を、今後設けてもよいと思います。8項目の視点はとても重要な視点だと思います。

以上、「社協」の新たな挑戦として、「大島食堂」の取り組みに対して、次の4点について町長と「社協」の所管課である、福祉けんこう課長にお答えいただきたい。

- ① 「大島食堂」を開設したことに対する評価
- ② 「大島食堂」の運営にかんしての要望・提案
- ③ 「大島食堂」の開設に対して、行政として今後どのような支援が考えられるか。
- ④ 4月9日に開催予定の第3回の「大島食堂」には参加していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

以上大枠として3点について質問させていただきました。

ご回答のほどよろしく願いいたします。